

正かなづかひで入力する手引 ATOK 篇

名賀月晃嗣

概説

本稿では、Justsystem が開発、販賣してゐる日本語入力システム ATOK で正かなづかひの文章を入力する方法を説明する。

ATOK では表現モードといふ設定項目があり、これを切り替へることで話し言葉や方言に対応するつくりになつてゐる。そのひとつとして「文語」表現モードが、平成 14 年發賣の ATOK16 から實装されてゐる。この「文語」表現モードにするだけで、正かなづかひでの入力が可能となる。「文語」モードだから文語の文章しか入力できない訣ではない。本稿のやうな口語の文章も問題なく入力できる。

注意點としては、促音や拗音を小書きで入力しなければ

漢字變換が上手くいかないこと、字音かなづかひには對應してゐないこと、の二つがある。

このうち、促音や拗音の小書きの問題については、平成 17 年發賣の ATOK2005 から對應がなされてをり、「文語」表現モードの詳細設定をすることで、入力結果を大書きにすることが可能となつてゐる。また、ひらがなは大書きに、カタカナは小書きにするといふ設定もできる。昔の法令文書など漢字カナ書きの文章を容易に書くことができ、「ひらがなをカタカナで表示する」設定もある。

また、ATOK2009 以降では正字體漢字が變換候補に挙げられるやうになつたことを書き添へておく。

設定方法の説明

以降、実際に設定する方法を説明する。ここでは ATOK2011 の Windows 版について説明する。

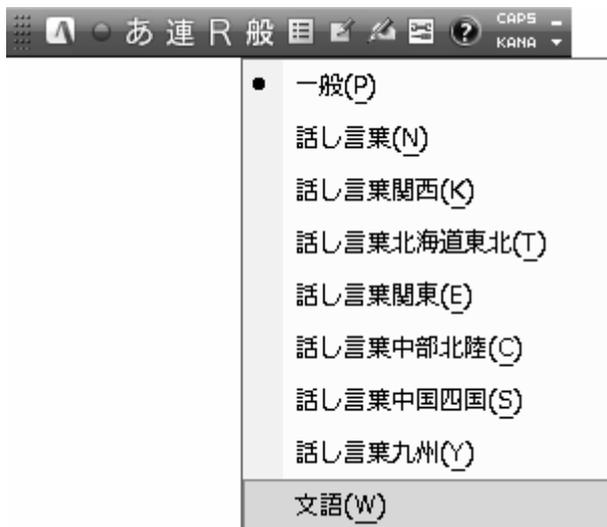
表現モードの変更

一時的に表現モードを変更する場合には、言語バー（図 1）の表現モードを表示してあるボタン（図 1 ㉔）をクリックすると選択肢が表示される（図 2）。その中から所望のモードを選択する。「文語」表現モードにしたい場合には、「文語」を選択する。

図 1

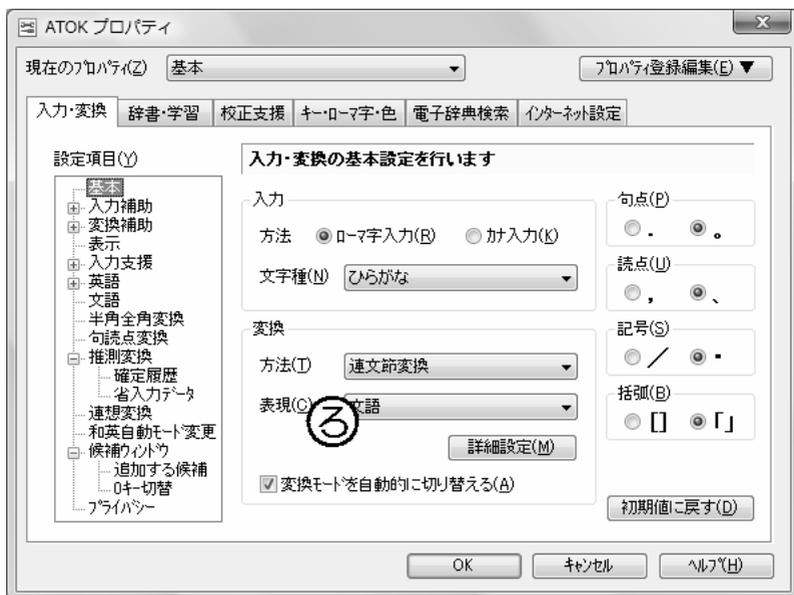


図 2



常に用ゐる表現モードを変更する場合は、ATOK プロパティを起動し、「入力・変換」シートの「基本」を選択する(圖3)。表示された設定項目の中に、「表現」といふ項目(圖3㉓)があるので、これをクリックし、表示された選択肢から所望のモードを選択する。

圖 3



「文語」表現モードの詳細設定

「文語」表現モードの詳細設定をするには、まず、ATOK プロパティを起動する。そこで「文語」を選択すると、圖4のやうな画面になる。促音や拗音を大書きにする場合には、圖4㉓のチェックボックスにチェックを入れる。小書きにする場合は外す。

ひらがなを大書きに、カタカナを小書きにする場合は、圖4㉓と圖4㉔の両方にチェックを入れる。

漢字かな交じりではなく、漢字カナ交じりで書きたい場合には、圖4㉓のチェックボックスにチェックを入れる。

圖 4



結び

以上、ATOK で正かなづかひの文章を入力する方法を説明した。その方法は4頁に収まる程に簡単で、ATOK 本體以外のファイルやソフトウェアも必要ない。

正字體漢字の入力まで考へるなら、筆者個人は ATOK の標準辭書では少々物足りな

く感じる。それでも、正字かなを使ふハードルが低くなつたことは大きに歓迎したい。

一人でも多くの讀者が、正かなづかひで文章を書いて呉れるやうなることを願ひつつ、この稿を結ぶ。